

(9) 四国



四国地域では、景気は緩やかに持ち直している。

- ・ 鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 個人消費は持ち直している。
- ・ 雇用情勢は改善の動きがみられる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(〃は上方に変更、〃は下方に変更)。

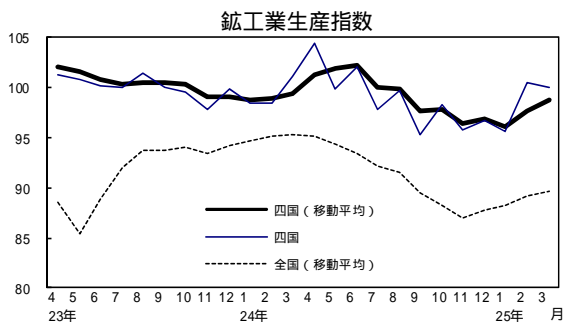
前回調査からの主要変更点

	前回(平成25年2月)	今回(平成25年5月)	
景況判断	下げ止まりつつある	緩やかに持ち直し	
鉱工業生産	下げ止まりの兆し	持ち直しの動き	
個人消費	おおむね横ばい	持ち直し	
住宅建設	増加	大幅に増加	
雇用情勢	持ち直しの動きに足踏み	改善の動き	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。

1～3月期には、化学は、医薬品等で増加した。電気機械は、光電変換素子のスマートフォン、タブレット向けや、蓄電池のノートパソコン向けの需要が低調であったこと等から減少した。食料品は、レトルト食品で新商品投入による需要増がみられたこと等から増加した。パルプ・紙は、印刷用紙(非塗工類)で在庫調整が進み、適正在庫へ生産を積み増す動きがみられたこと等から増加した。一般機械は、金属工作・加工機械で国内向けの大型出荷があったこと等から増加した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比)(%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		10~12 月期	1~3 月期	1月	2月	3月
化学	17.1	3.2	5.6	2.9	31.8	9.0
電気機械	15.4	4.4	6.8	7.5	2.9	2.9
食料品	13.6	3.0	3.0	1.9	8.8	4.9
パルプ・紙	11.8	3.0	0.5	2.4	1.1	3.4
一般機械	8.9	1.3	7.9	1.1	8.3	18.7
鉱工業	100.0	0.7	1.9	1.1	5.0	0.4

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

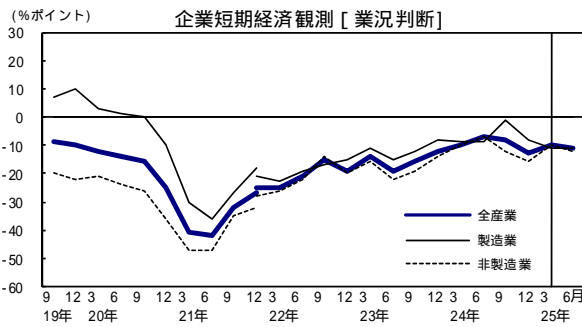
2. 1～3月期、3月は速報値。

(備考) 1. 17年=100、季節調整値、四国の最新月は速報値。

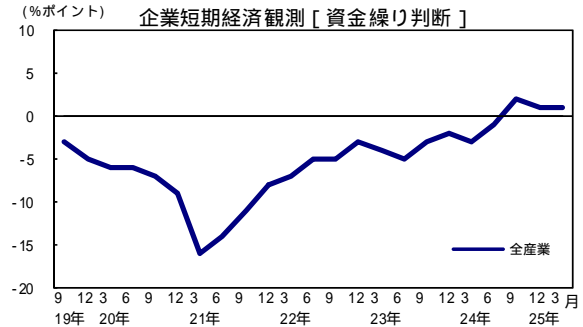
2. 全国及び四国の太線は後方3か月移動平均。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。

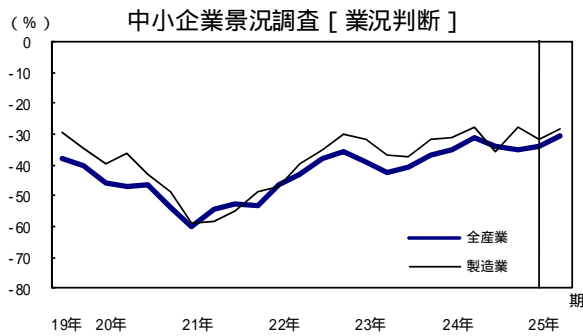
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。25年6月は予測。
21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
21年12月は新・旧基準を併記。

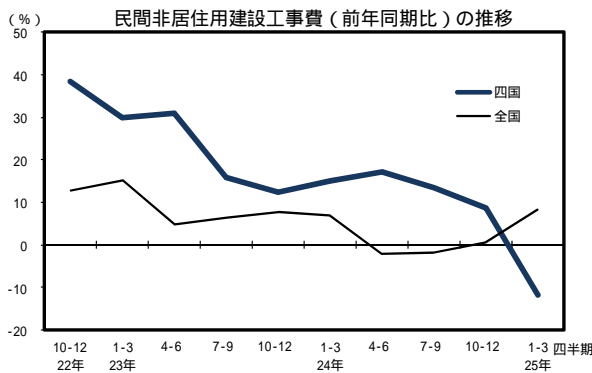


(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。25年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(4月)[企業動向関連(現状)]

「今月の関与先企業の試算表等を見ると、売上が前年比で減少している企業がかなり減ってきている。景気がやや持ち直してきていると判断できる(公認会計士)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は大幅に減少している。



企業短期経済観測調査[設備投資(3月調査)]

	(前年度比、%)	
	24年度実績見込み	25年度見込み
全産業	16.8(8.7)	3.7
製造業	28.6(16.5)	11.2
非製造業	0.3(0.9)	4.0

(備考)()は前回(12月)調査比修正率。

2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直している。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

1月は前月比0.6%増、2月は同0.8%増、3月は同0.4%減となった。

大型小売店販売額

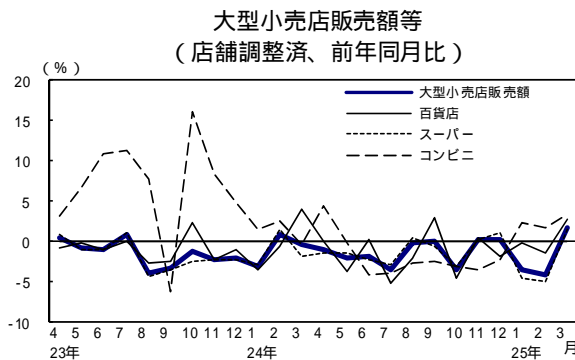
百貨店は、1月は、時計などの高額商品は好調であったものの、衣料品は冬物セールが低調であったこと等から前年を下回った。2月は、高級ブランドバッグなどの身の回り品が好調であったものの、うるう年の翌年で営業日数が減少したほか、衣料品で春物の動きが鈍かったこと等から前年を下回った。3月は、前年に比べ日曜日が1日多かったことに加え、時計などの高額商品が引き続き好調であったこと、また、前年に比べ気温が高めに推移し、衣料品で春物が好調であったこと等から前年を上回った。

スーパーは、営業日数の減少や、低気温により衣料品が低調だったこと等から前年を下回った。

景気ウォッチャー調査 (4月) [家計動向関連 (現状)]

四国地域の家計動向関連DIは、54.5 となり前月より0.1ポイント上昇した。

「来客数・購入単価ともに、ほぼ前年並みに推移している。これまで続いていた購入単価の下落が止まってきた(スーパー)」など、「やや良くなっている」とする回答が増加した。

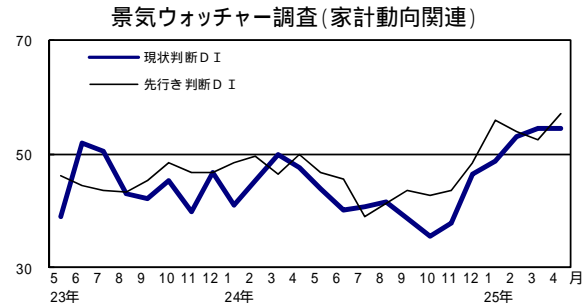
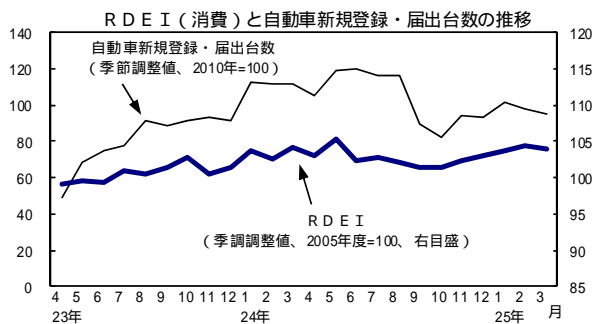


	25年1-3月	25年1月	2月	3月
RDEI (消費*1)	1.7	0.6	0.8	0.4
大型小売店(*2)	1.9	3.4	4.2	1.7
百貨店(*2)	0.5	0.1	1.5	2.7
スーパー(*2)	2.7	4.5	4.9	1.4
コンビニ(*2)	2.5	2.4	1.8	3.3
乗用車(*3)	12.6	9.9	12.3	14.4
(季節調整値)(*3)	9.4	9.0	3.5	2.5

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整済、前年同期(月)比 (%)

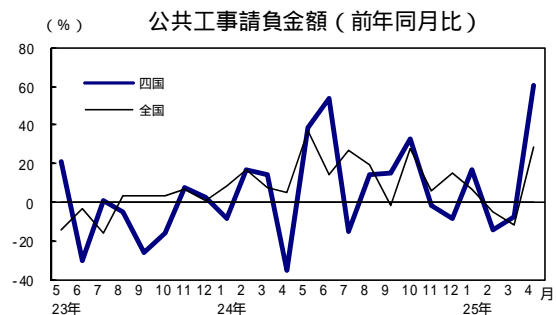
3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比 (%))



(2) 住宅建設は大幅に増加している。

持家、貸家、分譲が前年を上回ったことから、大幅に増加している。

(3) 公共投資は24年度累計で見ると前年度とほぼ同水準となっている。

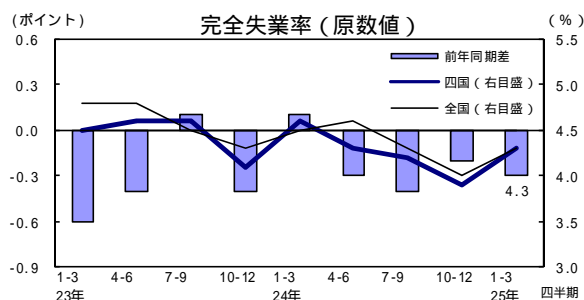
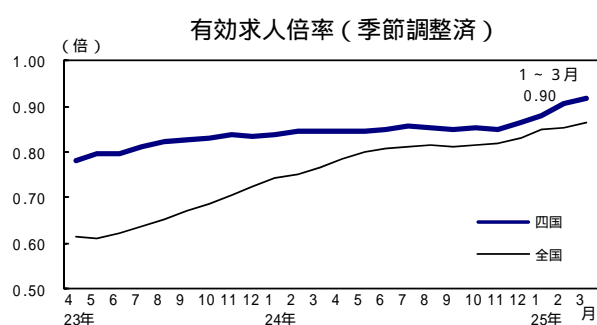


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は改善の動きがみられる。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査（4月）[雇用関連（現状）]

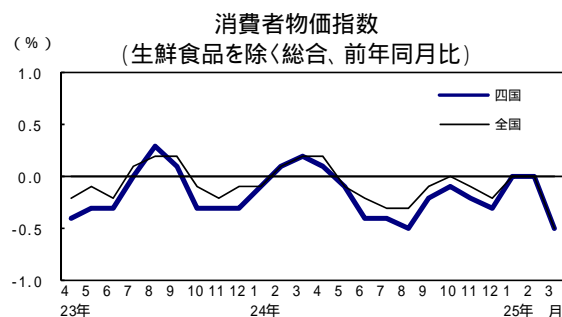
「サービス業の事業拡大や新設に伴う求人増加、また、卸・小売業での新店舗オープンに伴う求人増加が目立っている（職業安定所）」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数は前年比の下落幅が拡大している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	24年4-6月	7-9月	10-12月	25年1-3月	25年4月
倒産件数	63	69	69	60	22
(前年比)	14.5	13.8	19.0	16.7	4.8
負債総額	139	194	156	102	60
(前年比)	12.2	22.3	30.2	27.7	35.9



景気ウォッチャー調査（4月）[合計（特徴的な判断理由）]

<現状>

・円安が急激に進み、原料などが高くなっている。値上げをしなければ採算に合わなくなってくるが、販売先の圧力が強いので厳しい（パルプ・紙・紙加工品製造業）

<先行き>

・販売量の増加に加えて、来客数も増加していると感じられる。今後の購入予定等を話される事が多くなってきた（家電量販店）

